

未承認新規医薬品等評価部で承認された治療法に関する 情報公開文書

当院の未承認新規医薬品等評価部にて、下記の治療法が承認されました。病院ホームページにて情報を公開することにより、患者さん（若しくはそのご家族）から同意をいただくことの代わりとし、治療を実施します。なお、本件について同意できない場合でも、診療において不利益を被ることはありません。

内容に関して拒否される場合やご質問がある場合は、下記の問い合わせ先までご連絡ください。

実施内容	腹部 MRI 撮影時の鎮痙剤（ブチルスコポラミン臭化物注射剤およびグルカゴン注射剤）使用について
実施責任者	横浜市立大学附属病院 放射線診断科 宇都宮 大輔
対象患者	腹部領域（女性および男性骨盤領域、腸管）の疾患に対する MRI 撮影を受ける患者
承認日	令和 6 年 3 月 11 日
概要	<p>【目的・意義】</p> <p>腹部領域の MRI 検査では、腸管の蠕動運動によりアーチファクトとって実際の組織上には存在しない MRI の信号が生じることで、重要な画像所見を不明瞭にしてしまい、診断精度が低下することが時に問題となります。ブチルスコポラミンおよびグルカゴンには腸管の蠕動運動を抑える作用があるため、MRI 実施前に投与することで画質が向上し、精度の高い診断ができる確率を高めます。通常はブチルスコポラミン注射剤を筋肉内または静脈内注射しますが、ブチルスコポラミンを使用できない患者さん（閉塞隅角緑内障、前立腺肥大による排尿障害、重篤な心疾患、麻痺性イレウス、本剤に対し過敏症の既往がある）ではグルカゴン注射剤を代替薬として使用します。</p> <p>【想定される不利益と対策】</p> <p>ブチルスコポラミンを用いた場合、数%の患者さんで口渇、眼の調節障害、動悸といった症状が起こりますが、検査後早期に落ち着くとされています。また、グルカゴンを用いた場合は糖尿病や肝障害の基礎疾患がある場合は低血糖になる可能性があります。撮影中、退室後に気になることがあれば近くにいる医療従事者に尋ねてください。直ちに適切な対応に努めます。</p>
問い合わせ先	〒236-0004 横浜市金沢区福浦 3-9 横浜市立大学附属病院 放射線診断科 堀江 慧一 電話番号：045-787-2800（代表）

※なお、実施者/主治医と連絡が取れないときは、横浜市立大学附属病院 未承認新規医薬品等評価部（医療の質・安全管理部）までお問い合わせください。